

化学五輪代表 福岡大で合宿

全国の高校生6人

約80カ国の高校生らが化学の知識を競う「国際化学オリンピック」のシヨージア大会（7月23日開幕）に向けた日本代表の強化合宿が21日、福岡市の福岡大で始まった。写真。

化学オリンピックは筆記、実験問題をそれぞれ5時間かけて解く「個人戦」。化学専攻の大学生レベルの知識だけでなく、実験の技術も問われる。日本代表は約3千人の応募から筆記試験などを経て、東京、神奈川、兵庫、愛知の男子生徒6人が選ばれた。

強化合宿は海外との研究交流に力を入れる福岡大や京都大などで計4回行われる。この日は、水素イオン濃度を調べるpH指示薬がどんな仕組みで反応を起こすかを考察した。参加した



秋山茂義さん（17）は筑波大付属高3年。水溶液に指示薬を垂らし、色の変化に目を凝らした。「実験の時間配分も大事なことが分かった」と話した。

指導した埼玉大の水沢明名教授は「近年はインターネットの影響もあり生徒の知識レベルが高い。だが実験は、学校で経験が少ないせいだ」と話した。合宿は22日まで。

参加者記念撮影 福岡大学理学部棟（18号館前）にて

